

# EN (絶滅危惧 I B 類)

有鱗目 トカゲ科

カテゴリー判定基準：B-1, 2

## アオスジトカゲ

*Plestiodon elegans* (Boulenger, 1887)

英名：Elegant blue-tailed skink

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1997	2006
—	—	EN

国内での分布は尖閣諸島のみで、この地域と国外の分布地であるユーラシア大陸東部や台湾との古地理学的な関係を考える上で、また小島嶼における特殊化を考える上で貴重な資料を提供している。生息地面積は最大でも、合わせて7km<sup>2</sup>足らずの4小島嶼に限られる。このうち面積で全体の半分以上を占める魚釣島では、外来種であるヤギの増加にともなう植生の劣化・環境の破壊が進んでおり、生息範囲の縮小や個体数の減少が強く懸念される。

*Plestiodon elegans* is broadly distributed in the subtropical region of eastern Eurasia including Taiwan. In Japan, however, the range of this species is confined to no more than four islets of the Senkaku Group, whose total area is less than 7km<sup>2</sup>. Of the four islets where this species occurs, Uotsurijima, representing more than a half of their total area, currently suffers prominent on-going destruction of the vegetation through grazing by feral goats, and the resultant reduction of favorable habitats available to *P. elegans* is of great conservation concern.

### 基礎情報

■**形態** 全長145～172mmで、尾は非再生のものの場合、全長の55%前後を占める。後鼻板がなく、大腿部の後側に不規則な形状の大型鱗のかたまりがあり、また後肛板の1対にキールがある。胴部の体鱗は台湾やユーラシア大陸の集団では普通26列であるが、尖閣諸島のものでは28列の場合が多い。幼体の地色は黒色ないし暗褐色で、5本の白色ないし淡黄色の縦条が走る。幼体の尾は、国外の集団では全体が青色の場合が多いが、尖閣諸島の集団では先端側の半分のみが青色で、基部側の半分は褐色。このような幼体色は成長とともに失われ、成体では尾も含めて全体的に褐色となる。

■**分布域** ユーラシア大陸東部の亜熱帯域や、台湾など一部の隣接する島嶼に分布する。国内では尖閣諸島の魚釣島、南小島、北小島、久場島だけに見られる。琉球の他の島々からも記録されたことがあるが、尖閣諸島以外からの記録はすべてイシガキトカゲやオキナワトカゲと

いった、近似種の誤同定に起因している。

■**生息環境** 大陸や台湾では、湿地やうっそうとした自然林に覆われた場所を除き、標高2,500m近い高地を含むさまざまな環境に生息する。尖閣諸島でも岩場や草地、灌木林などの広い範囲で観察される。魚釣島では海鳥の営巣地周辺にも多く、育雛中の親鳥が吐き戻したヒナの餌（半消化の魚）の一部を利用するのが観察されている。

■**生活史** メスは地表の岩の下を掘るなどして作った空所に6、7個産卵し、同属の他種と同様、ふ化するまでそばにいて保護する。尖閣諸島でのふ化の時期は6月下旬で、この頃になると全長73mm前後の幼体が地表に現れる。

### 現在の生息状況

■**分布域の現況** 国内の産地は尖閣諸島の4島のみであり、生息面積は全部合わせても最大で7km<sup>2</sup>足らずの範囲に限られている。

■**生息地の現況** 国内で本種が分布する島のうち、全体の半分を超える面積を占める魚釣島では、野生化したヤギによる植生の食害とそれともなう土壌の浸食が進んでおり、1971年、1979年、1991年に魚釣島で上陸調査を行った池原貞雄博士の私信によると、餌の供給源のひとつと考えられる海鳥の営巣数も減っている。そしてこうした環境の悪化から、島内で実際に生息できる範囲が年々狭まっていることが考えられる。

■**個体数の現況** 個体数やその近年における変動は不明。しかしながら、尖閣諸島における分布面積の大半を占める魚釣島での野生化したヤギに起因する植生の後退や、それともなう土地の浸食により個体数が減少傾向にあることが強く懸念される。

### 存続を脅かす要因

国内の分布は従来から尖閣諸島の4島（合わせて7km<sup>2</sup>足らず）に限られており（61）、しかもそのうち最大の生息地である魚釣島では、野生化したヤギによる植生の破壊が進んでいる（54）。

### 保護対策の現状

とくになし。

### 特記事項

わが国のアオスジトカゲ個体群は、尖閣諸島が琉球の他の島々と違ってユーラシア大陸東部や台湾と、より最近（更新世末期の水期）まで

一体化した時期があったという古地理を反映しており、生物地理学的に貴重な資料となっている。また、それにもかかわらず大陸や台湾の集団との間で体色や鱗相に変異が生じており、小島嶼の集団における特殊化という観点からも学術的価値が高い。

### 参考文献

- Brandley, M., H. Ota, T. Hikida, A. Nieto Montes de Oca, M. Ferial Ortiz, X. Guo and Y. Wang, 2012. The phylogenetic systematics of blue-tailed skinks (*Plestiodon*) and the family Scincidae. *Zool. J. Linnean Soc.*, 165: 163–189.
- Hikida, T. 1989. The Ryukyu blue-tailed skink, *Eumeces marginatus*, not distributed in Taiwan. *J. Taiwan Mus.*, 42: 81–88.
- Kato, J. and H. Ota, 1994. Notes on the breeding of the five-lined skink, *Eumeces elegans*. *Acta Zoologica Taiwanica*, 5: 77–81.
- Ota, H., 2004. Notes on the reproduction and variation in the blue-tailed lizard, *Eumeces elegans* (Reptilia: Scincidae), on Kita-kojima Island of the Senkaku Group, Ryukyu Archipelago. *Cur. Herpetol.*, 23(1): 37–41.
- Ota, H., N. Kamezaki, M. Toda and S. Okada, 2010. Osumi Islands: (iii) amphibians/reptiles, Tokara and Amami Islands: (iii) amphibians/reptiles, Okinawa and Kerama Islands: (iii) amphibians/reptiles, Daito Islands: (iii) amphibians/reptiles, Miyako Islands: (iii) amphibians/reptiles, Yaeyama and Senkaku Islands: (iii) amphibians/reptiles, Amphibians/Reptiles, references. In: S. Yasumura (ed.), *Nansei Islands Biological Diversity Evaluation Project Report*, pp. 6–7, 12–14, 20–21, 20, 32–33, 37–39, 196–201. WWF Japan, Tokyo.
- Ota, H., N. Sakaguchi, S. Ikehara and T. Hikida, 1993. The herpetofauna of the Senkaku Group, Ryukyu Archipelago. *Pacific Sci.*, 47: 248–255.
- Yokohata, Y., Y. Ikeda, M. Yokota and H. Ishizaki, 2003. The effects of introduced goats on the ecosystem of Uotsuri-Jima, Senkaku Islands, Japan, as assessed by remote-sensing techniques. *Biosphere Conserv.*, 5: 39–46.
- 横畑泰志・横田昌嗣・太田英利, 2009. 尖閣諸島魚釣島の生物相と野生化ヤギ問題. 広島大学平和科学研究センター (IP-SHU) 研究報告, (42): 307–326.
- Zhao, E.-M. and K. Adler, 1993. *Herpetology of China*. Society for the Study of Amphibians and Reptiles. Oxford, Ohio. 522pp.

執筆者：太田英利（兵庫県立大学 自然・環境科学研究所/兵庫県立人と自然の博物館）